

# ぱちんこ依存問題相談機関

## 18年度の依存相談件数は989件、本人相談43%

### リカバリーサポート・ネットワークが活動報告。「借金あり」が約6割

全日遊連の「ぱちんこ依存問題研究会」(米田義一座長)の構想を経て、昨年4月設立されたぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(医学博士・西村直之代表、略称RSN)は、昨年の相談開始から1年が経ち、その活動概要についての会見が4月19日、都内ホテルで行われた。西村代表、全日遊連・山田理事長、米田座長、力武副座長が出席した。

RSNは、パチンコへの過度ののめりこみ(依存問題)に焦点をあて、早期介入システムをつくる必要性を提唱。その第一歩として電話相談ホットラインを開設して相談事業に取り組んでいる。

平成18年度の相談事業概要報告によ

ると、昨年4月～今年3月までの相談総数は989件で、全国各地から相談が寄せられている。年齢別相談件数では30歳代が最も多く、20～30歳代にピークがみられる。依存問題について本人からの相談は43%、家族・友人からの相談が47%などとなっている。西村代表は、「本人からの相談を50%以上にすることをひとつの目標にしてきた。そのため効果的なのは、ホール内のトイレ等にポスターを貼ってもらうことだ」として、RSNのポスター掲示に協力を求めた。

相談内容で最も多かったのは、パチンコ・パチスロを「やめ(させ)る方法」で556件、次いで「地域の相談先」169件、



リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)会見

「家族の接し方」112件となっている。初めて相談したという人は約8割にのぼっており、相談者の59%は借金があるとしている。

RSNでは、相談を受けて地域の相談機関等を紹介しているが、転帰のうち最も多いのが県や市の精神保健福祉センター、次いでGA(ギャンブルーズ・アノニマス)、ワンデーポートの順となっている。精神保健福祉センターでは、依存問題に対する認識が欠けているケースが多く、西村代表は、フォローアップが十分できないジレンマがあるとして、回復支援に向けた社会資源整備の必要性を示した。